

結晶母

2011年3月号

発行日：2011年03月01日

「結晶ができる時、最初に生まれる結晶。それが結晶母。結晶母の周りに同じ形をした元素が集まって、ひとつの大きな結晶をつくる。ひとつひとつの結晶は小さくても、結晶母を中心に集まった大きな結晶のネットワークは強く、たくましい！ そんな大事な結晶母の役割を、地球に住むひとりひとりが果たせたら・・・」そんな願いを込めて、名付けました。



伝統楽器を演奏する地雷被害者のマオさん【カンボジア】

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス 創設者 鬼丸昌也

テラ・ルネッサンスは設立10周年を迎え、一つの決断をしました。理事長職を、小川真吾（ウガンダ駐在代表）に交代することです。設立以来、テラ・ルネッサンスは、関わるすべての人が「主人公」であるべきだと思っていました。つまり、誰もがリーダーシップを発揮し、それぞれの役割を果たすことで、「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」（設立目的）を、全員で目指したいと考えてきたのです。大切なことは、誰が組織のリーダーになろうとも、全員が「設立目的」を見続ける組織であれば、必ずぶれることなく、効果的な組織運営ができるということです。私たちは、これからも「設立目的」のみを見続けながら、活動を積み重ねてまいります。理事長小川のリーダーシップにご期待ください。

目次：

- p2~3 ウガンダ・コンゴ事業報告
- p4~5 カンボジア・ラオス事業報告
- p6 あくていびてい・れぼーと
- p7 ふえいす to ふえいす
- p8 てらるね手帳

●生まれて始めて自分で得た収入【ウガンダ】

2009年に受け入れた元子ども兵38名が、1年半のフルタイム訓練を終えて、自立に向けて歩み始めています。昨年末から、各自がグループや個人で収入を得るための計画を立てながら、スタッフとともに準備を進め、今年1月、ミシンや木工用具等々の資機材とマイクロクレジット（小規模の融資）を全受益者に供与しました。



反政府軍に子ども時代に誘拐されてから、これまで一般社会で生きる術を持たずにいた元子ども兵たちが、それぞれ、洋裁や木工大工などの習得した技術を使って、自分の力で収入を得ることができるようになりました。同時に、元子ども兵38名に加えて、これまでともに訓練を受けてきた元国内避難民らの最貧困層住民にも同様の支援を行い、彼ら彼女らも自立に向けて順調に歩み始めています。

同地では、元子ども兵に限らず、多くの住民が不安定な経済状況の中で生活しており、さらに開発が進むとともに貧富の格差が急激に拡大している中で、収入を安定させることは容易ではありません。海外からの援助が一部の裕福層に偏って流れることも珍しくはなく、そんな中で、家賃や物価が急激に高騰したり、農村の土地が買い占められたりといったことも起こっています。このような状況で、各自が収入を安定していけるように、受益者の帰還先の各地域で貯蓄グループを形成し、何らかの外部要因で大きな出費が発生した場合などのリスクに対応できるように支援しています。これまでは、食費や医療費などの生活費を当会からクーポン券で直接支援してきましたが、今後は、彼ら彼女らの収入向上のための支援（小規模融資や用具等の支給、小規模ビジネスの指導）を行いながら、受益者が自らの力で収入を得て、本人やその家族の食費、医療費、または子どもの学費等を得られるように支援活動を続けていきます。

10代のほとんどを兵士として過ごさざるを得なかった彼ら彼女らが、紛争後の不安定な地域で自立していくためには、まだまだ大きな壁はあるかもしれませんが、今後、全員が経済的にも社会的にも安定した生活ができるように、現地スタッフ一同、支援を継続していきたいと思っています。



自らの力で収入を得るための小規模ビジネスの計画策定を完了させ、当会から洋裁用ミシンなどを受け取る第5期生。同洋裁用ミシンは、(特活) イエロー・エンジェル (理事長: カレーハウス CoCo 壱番屋創業者宗次徳二様) のご寄付により購入させていただきました。

●紛争下で自給食料を確保するための支援活動【コンゴ】



現在も治安が安定しないコンゴ東部・南キブ州では、元子ども兵や紛争被害者などの社会的弱者が自給食料を確保するための活動を現地 NGO（GRAM）と協働で続けています。

昨年同様、12カ村（12グループ）は、昨年の収穫物（キャッサバ、サツマイモ、ジャガイモ、豆、マトウケ、ヤマイモ、メイズ、キャベツ）から種子を確保して栽培を開始しています。そのうち、9グループは、今年も順調に栽培が進んでおり、各グループのメンバーが協力して、個人の土地の開墾、共同農地の開墾、栽培を行っています。また、昨年は、市場で販売するだけの余剰作物を生産することはできませんでしたが、今年は、各グループが共同農地で収穫された農作物の半分を市場で販売し、現金収入を各グループが共同貯蓄する予定です。貯蓄金は、グループのメンバーが病気や怪我の治療など現金が必要な時のために使っています。

一方、残りの3カ村（3グループ）は、政府軍、反政府軍双方からの襲撃や略奪が続くなどの治安悪化のため、農地を耕すことが困難になり、一時的に中心地であるカロンゲに近い他のグループの村に避難せざるを得なく、避難先の土地で、当地のグループメンバーの協力を得て、食料生産を行っています。彼ら彼女らには、豆などを緊急支援し、半分は臨時の食料として、半分は避難先での栽培用の種子として利用しました。また、農機具が不足または刃の部分の消耗しているメンバーに対して、97個の農機具部品（鋤の刃）を提供しました。このような不安定な状況が続いていますが、グループ間の協力を促進しながら、これら3カ村のメンバーからも自給食料が確保できるように支援を続けていきたいと思っています。

●元子ども兵プロジェクトの事前調査を実施しました【ブルンジ】

今年1月、ブルンジの首都ブジュンブラにて、元子ども兵に対するプロジェクトの事前調査を行いました。ブルンジは、ルワンダ、コンゴ民主共和国、タンザニアと国境を接しており、アフリカの内陸に位置します。紛争が続いていたブルンジですが、昨年、和平の終結宣言を行い、住民の生活は落ち着き始めています。50万人発生した国内避難民もほとんど帰還していて、平和・復興に向けての活動が続いています。今回のニーズ調査の結果では、元子ども兵の社会復帰、エイズ、マラリア対策、孤児対策、公衆衛生等々、テラ・ルネッサンスとしてできることは山ほどあり、元子ども兵への支援を始めることは、長期的に見ても意義があると感じました。今後、調査を進めて、プロジェクト実施に向けた体制を整えていく予定です。



●村人たちによって運営される制度・クメール伝統音楽復興開始 ～オッチョンボック村～【カンボジア】

オッチョンボック村では、村落開発支援を始めた2008年以来、小規模融資や健康保険の制度を村人たちが運営してきました。多くの村人が融資によってトウモロコシや大豆、キャッサバなどの作物の栽培をしていますが、ここ3年で大雨や干ばつなどの自然災害の影響を2回受けました。しかし、2010年後半は、雨も適度に降り、73%の家族が収入を向上させています。

また、2010年は、6名の村人が保険を申請し、健康保険の適用を受けました。そして、2年で1,400,000リエル（およそ350USドル）が、健康保険の資金として村の住民組織に貯蓄されています。HIVに感染したイェム・ヴァンさん（42歳）は、病院へ検査に行くための交通費を保険によってカバーできたことで、感染が分かり、現在は政府から無料で提供される薬によって健康状態はよくなってきています。

そのほか、この村では、トヨタ財団のアジア隣人プログラムの助成金で2010年11月より、伝統音楽復興&継承プロジェクトを開始しました。このプロジェクトでは、村の地雷被害者を含めた貧困層の村人たちが、カンボジアの結婚式で演奏されてきた伝統音楽を楽団として演奏することで、ポル・ポト時代に破壊され、長い内戦によって村人たちが楽しめなかったクメール伝統音楽を復興し、そして若い世代にもその演奏と音楽を継承していきます。農作業で昼は忙しいため、夜集まって練習をしています。満天の星空の澄み切った空気の中、美しい音楽が村に流れています。

●見違えるほどきれいになった小学校と地雷生存者家族への豚飼育支援 ～プレア・プット村～【カンボジア】

2010年10月、プレア・プット村に、2009年に引き続き、長崎のNPOコミュニティ時津の5名の方にご訪問いただきました。今回の訪問では、内戦で破損の激しかった村の小学校の壁のペンキ塗りを、先生や子どもたちと一緒に実施しました。これにより小学校は見違えるほどきれいになり、先生や子どもたちの授業へのモチベーションも上がっています。また、昨年設置した図書室へは追加の絵本を届けてくださり、バレーボールやサッカーボールもご寄付くださいました。

さらに、最貧困層の地雷被害者家族の家を訪問した際に子豚と鶏などの購入資金をご提供くださり、飼育を始めています。テラ・ルネッサンスからは、豚舎建設や自然養豚方法を用いた豚飼育の技術を地雷被害者家族へ提供しています。現在、飼育は順調で、1頭の豚を販売後に得た収入で2頭の雄と雌の子豚を買い、繁殖させて飼育数を増やす計画です。鶏やアヒルなどの飼育方法も支援し、副収入を確保することで生活の安定を図ります。



NPO コミュニティ時津の5名の皆様とペンキ塗りをする先生と子どもたち



地雷被害者家族の子どもが豚小屋に入って子豚と遊んでも、自然養豚では臭いもほとんどない

●新たに地雷埋設地域で村落開発プロジェクトを開始 ～ロカブス村～【カンボジア】

2011年1月から、バタンバン州カムリエン郡では3つ目となるロカブス村で、村落開発支援を開始しました。この村には幹線道路が通っていますが、非常に貧しく、お店や病院、薬局、市場などないところです。昨年、テラ・ルネッサンスが提携する地雷撤去団体MAGが地雷撤去を実施するまで、村は地雷で汚染されていました。MAGによって156,575㎡の地雷原が安全になり、324個の対人地雷と31発の不発弾が撤去されています。今は人々の日常生活圏内の地雷は撤去が終わっていますが、まだ森の中には地雷原が残されています。

2001年には、地雷事故が5件起きました。いずれも中国製の対人地雷タイプ72による事故で、森を開拓しようとして起きました。また、ある村人の家では、子どもが裏の森から地雷を持って帰ってきたこともあったそうです。幸い事故はありませんでしたが、この地雷は、危険なため、政府の地雷撤去団体CMACのスタッフが回収したそうです。

村は、ようやく地雷撤去によって安心して生活できるようになりつつありますが、村人たちのほとんどが、最貧困層の厳しい生活をしています。村では、小規模融資や健康保険の仕組みづくりを始めています。今後、地雷被害者家族への支援などを実施していく予定です。



ある村人が見せてくれた
中国製対人地雷タイプ69の一部

●濃霧の中の学校で勉強する熱気に満ちた教室 ～プレマ・シャンティ中学校～【ラオス】



熱心に授業を受ける中学校の生徒たち

2009年にプレマ株式会社様のご寄付で、不発弾撤去をした後の土地に中学校を建設したシエンクアン県カンパニオン村へ、今年2月14日、1年ぶりに訪れました。この日は、濃霧が村を覆っており、到着しても、学校の窓やドアが閉められていて、一瞬学校が使われていないのではと心配になったほどです。しかし、教室の中は、どこも熱心に授業を受ける子どもたちで一杯でした。窓やドアが閉められていた理由は、寒さにあります。暖房のない教室で、子どもたちは、厚手の服やオーバーに身を包み、必死に授業を受けていました。本当にシャイ（恥ずかしがり）な子どもたちですが、皆とても丁寧にあいさつしてくれます。

校長先生によれば、12名の先生たちによって、ラオス語、数学、自然科学、化学、物理、英語などさまざまな授業が実施されているとのことでした。6つある教室のうち、5教室で授業が実施され、1教室は職員室として利用されています。生徒の数はさらに増加しており、現在、1教室が足りない状況で、来年には2～3教室が不足すると校長先生は話していました。生徒数の増加率は58%にもなるそうです。こうした生徒数の増加も、中学校建設によるいい影響で、それまで小学校を卒業した子どもたちの教育を受ける環境はありませんでしたが、中学校へ進学し、さらに高等教育を受ける機会を多くの子どもたちが享受しています。

● BP 研究会（非公式）が発足しました。

今年5月に京都に本社のある企業様で講演させていただいたことがご縁で、『Business for Peace (BP) 研究会』という非公式の研究会を立ち上げました。

この研究会では、軍縮や軍備管理を含めた平和構築という分野において、企業がどのような役割を果たすことができるか、ということを中心に、平和構築に関わる企業、NGO、有識者が対話を通じて、「企業の平和活動（仮称）」のあり方について考えることを目的に、全5回の実施を予定しています。

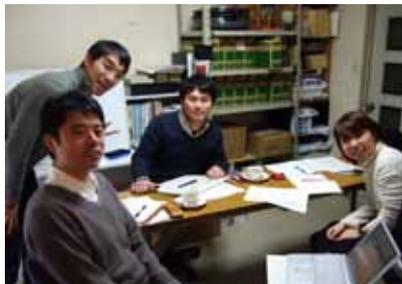
12月10日に行われた第1回目は、当会理事・ウガンダ駐在代表の小川がウガンダでの経験をもとに、「アフリカ大湖地域の現状～なぜ、小型武器の管理が必要か～」をテーマに報告を行い、第2回目（2月10日）は、拓殖大学海外事情研究所の佐藤丙午教授を招致し、「現代の軍縮事情と企業セクターの果たす役割」について、講義いただきました。

テラ・ルネッサンスのいつもの雰囲気とは一味違うこの勉強会。国際協力を担うNGOといっても、日々の業務に忙殺され、専門分野の学習が疎かになりがちな職員には貴重な学習の機会となり、また国際関係などを学んでいるインターンにとっても、第一線で活躍する専門家の話を聞くことができる刺激的な機会になっています。この研究会を通じて、当会、企業双方の知識を深めるとともに、平和構築に向けた協働事業に発展させていくことを目指しています。（よしだ）

● 「想い」が詰まった、新しいデータベースを構築しています



現在、テラ・ルネッサンスは、JICA（独立行政法人 国際協力機構）のNGO組織強化のためのアドバイザー派遣制度を利用して、新しいデータベース構築について、コンサルティングを受けています。コンサルティングを行ってくださっているのは、株式会社ファンドレックスさん。日本でほぼ唯一と言っていい、公益団体の資金調達（ファンドレイジング）を専門にコンサルティングや啓発を行っている会社です。



このコンサルティングを通して、私には大きな気づきがありました。それは、新たなデータベースを構築することは、会員・支援者様のデータをただ蓄積・分析・管理するためではなく、もっと会員・支援者様のことを「好き」になるためであるということです。好きになった相手には、もっと私たちのことを好きになってもらいたいと思うのが常です。だからこそ、関係性を維持・発展させるために、相手のことを思って、いろいろな関わりを持とうとする。そのために、相手の情報を蓄積していく。データベースの構築の作業の先にある、大切なサポーターの皆様とのあたたかな「関係」を目標に、年度末までに、この新たなデータベースの完成を目指しています。

また、もっと皆様の想いお聞きしたい一心で、現在、アンケートを実施しています。詳細は同封のテラ・ルネッサンス会員アンケートをご覧ください。ご協力をよろしく申し上げます。（くりた）

●ワン・ワールド・フェスティバルに参加しました！

2月5日（土）～6日（日）の2日間かけて、大阪で開催されたワン・ワールド・フェスティバルに参加してきました。ワン・ワールド・フェスティバルは、国際協力に取り組むNGOやNPOが集う関西最大のイベントで、初参加だった私は会場内の熱気に圧倒されました。時間帯によっては、会場いっぱいにお客さんが来てくださり、通路が進めなくなる程でした。テラ・ルネッサンスのブースも盛況で、たくさんのボランティアさんにお手伝いいただけていなかったらと思うと…。

また、5日（土）は、合同説明会という形で、テラ・ルネッサンスが募集しているインターンの説明をする機会がありました。こちらの説明会にもたくさんの方にお越しいただき、熱心な質問をいただきました。

普段、誰かの反応を直に感じながら活動を説明する機会は限られているので、私たちにとってこのようなイベントはとても大切なものです。ブースに来られた方への対応を通して、自分をもっと活動内容などを上手く説明できないか考えるきっかけになるからです。また、他の団体がたくさん集まる今回のようなイベントでは、他の団体の展示方法を見ることも勉強になります。

ブースに来られた方、ありがとうございました！！（ほそみ）



●新インターン生紹介

こんにちは。今月から回収事業を担当します、同志社大学3回生の田中麻子です。「世界平和の実現」に向けて、皆様とともに歩んでいきたいと思っております。一生懸命頑張りますので、よろしくお願いたします。

立命館大学2回生の宗盛千枝です。回収事業を担当しています。皆様のご支援が「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」に繋がるよう、自分の役割をしっかりと果たしていきたいと思えます。日々修行です。

皆様初めまして。立命館アジア太平洋大学4回生の堂坂梨乃と申します。昨年の10月から回収事業担当として活動させていただいております。まだまだ半人前ではありますが、皆様のお気持ちを形にすべく、頑張ってまいりますので、よろしくお願いたします。



田中



宗盛



堂坂

●回収キャンペーン 2010 終了

全国の皆様のあたたかいご支援を賜りながら、1月末をもって、未使用・書き損じハガキ及び使用済みインクカートリッジの回収強化キャンペーンを終了いたしました。全国から届くご支援の数々に、そして回収物に添えていただいたお手紙に、嬉しい悲鳴をあげつつ、同時に回収事業の確かな広まりを実感いたしました。回収キャンペーン中に届きました回収物は、すべてカンボジアでの地雷除去活動への資金提供及び地雷埋没地域の村落開発支援、ウガンダでの元子ども兵社会復帰支援のための資金として活用いたします。また、回収キャンペーンは終了いたしました。未使用・書き損じハガキ、使用済みインクカートリッジ、そして不要になりました携帯電話の回収は年中行っておりますので、今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

なお、回収キャンペーンの換金結果につきましては、仕分け、換金作業が終わり次第、当会ホームページ上にてご報告差し上げますので、もうしばらくお待ちくださいませ。(どうさか)



●冬季募金へのご協力 ありがとうございました!!

毎年恒例となった冬季募金。今年もたくさんの方々のご協力により、合計 1,655,027 円のご寄付をいただきました。100 万円を超える募金に、スタッフ一同驚くとともに、お金にはかえることのできない活動に対する勇気をいただきました!!

冬季募金は、11月8日から1月31日までいただいたご寄付のうち、事業指定を除くご寄付を対象としています。今回の冬季募金では、当会への直接のご寄付に加え、公益財団法人京都地域創造基金へも多くの寄付をいただきました。

いただいたご寄付は、国際協力事業を中心に、当会の活動費として大切に使用させていただきます。あたたかいご協力をいただき、本当にありがとうございました。冬季募金にご協力いただいた方には、別途簡単な報告書を送付させていただきます。

ご寄付は年中受け付けておりますので、冬季募金に間に合わなかった方も、今からでもご協力をよろしくお願いいたします(笑)。(よしだ)

●編集後記

「結晶母」の編集を担当するようになって1年半が過ぎました。印刷ができ上がった段階で間違いを発見し、ああ、やってしまったと落ち込むこともあったのですが、前回よりはちょっとでもわかりやすくをモットーに、編集作業に取り組んできました。

このたび、「結晶母」の大幅なりニューアルを予定しており、現在スタッフの間でいろいろ案を出し合っているところです。次回の「結晶母」はこれまでとは違った形で皆様にお届けすることになると思いますが、今後とも末永く「結晶母」をよろしく願いいたします。(まきの)

<編集・発行>

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町 5-23-105

TEL&FAX : 075-645-1802

E-mail : contact@terra-r.jp

<http://www.terra-r.jp>

